

PR 「応援を受けたい人」と「応援したい人」を結ぶ架け橋!

# とくしま農山漁村 応援し隊 Vol.1

ふるさと

ふるさと団体&  
農山漁村協働パートナーの  
参加者募集中!

詳しくは  
ホームページを  
ご覧ください。



徳島県農林水産部 農山漁村振興課  
振興・創生担当 電話:088-621-2486

応援を受けたい! ふるさと団体

応援したい! 農山漁村協働パートナー

## 出羽島を考える会



原田友彦さん(46歳・埼玉出身)  
島への来訪は「希望」そのもの。  
お互いにとって実りのある滞在にしたい



段々畑にはるみの苗木を植樹。「木を植えるとその後が気になりますよね。ただ単に草刈りや清掃するだけじゃなくて、こうして楽しみながら未来へつなげる取り組みをプラスしています」。



海岸の漂着ごみを収集。



島の交流施設「波止の家」で活動の振り返り。

牟岐港から連絡船で15分、沖合にぼっかりと浮かぶ周囲約4kmの小さな島、出羽島。温暖な気候や紀州、室戸、四国山脈を望むパノラマ風景に包まれ、ゆるりと流れる時間に心休まる。また、漁業の隆盛とともに形成された伝統的な町並みは、平成29年に国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)に選定されている。景観の保全や来訪者の受け入れといった選定後の変化に備え、島民と行政が一体となって立ち上げたのが「出羽島を考える会」だ。

重伝建選定から6年を迎えた現在、多いときは1000人を超えていた島の人口は100人を切り、人口減少と高齢化による担い手不足は年々深刻さを増している。「島外の人に応援してもらわないと」。様々な悩みを抱え、ふるさと団体として「とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業」に参加した。

昨年の6月から始まった協働活動は、今年の5月で3回目。協働パートナーである株式会社高橋ふとんと店と西精工株式会社の計15名を、原田さんと牟岐町教育委員会の職員が3班に分かれて率いた。主な作業は、海岸や遊歩道の清掃と段々畑の整備。作業がひと段落したら、原田さんが取り組む「海に浮かぶ食べられる森プロジェクト」の一環として、段々畑への植

樹体験を行った。最後は、伝統的な古民家を改修した交流施設「波止の家」で、島の女性部が手掛けのお弁当を食べながら活動の振り返り。参加者からは「やっと来られて嬉しかった」「今年で2回目。来年もまた来ます」などの言葉があったという。

「知ってくれる、来てくれることは、出羽島にとっての希望そのもの」と、噛みしめるように話す原田さん。「だからこそ協働パートナーさんには、応援してもらえばかりじゃなくて、こちらからもいろんな価値を提供したいんです」。たとえば、自然の中で過ごす心地のいい時間や、そこから学ぶ生活の知恵。島で得たものを、普段それぞれが暮らす地域にも広げてほしいと考えている。「協働活動を長く続けることで、お互いに違う視点からの意見や得意なことをシェアできるような、継続的な関係が築けるのがありがたい。そうすると、一緒に何か新しいものを生み出せる可能性が広がると思うんです。そして、島の持続はもとより、ステキな社会や豊かな地球を、いっしょに育てていきたいなと思っています」。

### 2023年度 活動予定

- 11月下旬 段々畑の草刈り、海岸清掃等

徳島県が推進する「とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業」。集落道の草刈りや地域のお祭りなど、農村保全や地域活性化の取り組みで「応援を受けたい」と考えている農山漁村の団体(ふるさと団体)と、社会貢献をしたい、地域交流を活発にしてビジネスにも繋げたいなどの理由で「応援したい」と考えている企業・大学・NPO法人等の団体

(農山漁村協働パートナー)を結びつけて協働活動を行い、地域の魅力を未来へ繋ぎ、さらに農山漁村と都市の人と人との交流を目指す事業です。

ふるさと団体「出羽島を考える会」の原田さん、農山漁村協働パートナー「株式会社高橋ふとんと店」の向井さんに、それぞれの取り組みについて教えてもらいました。

## 株式会社 高橋ふとんと店



向井詩保さん(33歳・鳴門市出身)  
島の豊かな自然と温かいおもてなし。  
観光のような非日常気分を味わえました!



牟岐町出羽島での活動の様子。出羽島を考える会の原田友彦さん指導のもと、段々畑の手入れを入念に行う。



はるみの苗木を植えてみんなで命名。「また来年、成長が見えたらいいな」と再訪の楽しみになっている。



勝浦町の「ビッグひな祭り」に向けて、ひな人形の受け取り作業を応援。

徳島、香川、兵庫に6店舗を展開する、1967年創業の寝具専門店。今秋「ふとんのタカハシ」川内店にベーカリーを併設するというニュースが話題を呼んでいる。

これまでも、臨空本部前の海岸清掃やとくしまマラソンの給水ボランティア、児童福祉施設への寝具贈呈、「とくしま協働の森づくり事業」への参画など、積極的に社会貢献活動をおこなってきた同社。令和2年度より「とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業」の協働パートナーとしても活動する。社長の高橋武良さん(56歳・吉野川市出身)がふるさと団体の活動一覧を見て、馴染みあるイベントや祭りが多くあることに親しみを覚えたのが参加の決め手。「こうして地域で活動する機会を与えてもらえるのはありがたいこと。地域貢献に関心があっても、どうしたらいいのかわからない、という企業や団体も多いと思うんです。そのきっかけとしてぴったりの制度ですよね」。

ふるさと団体の応援はコロナ禍でしばらく止まっていたが、今年1月から本格的に再開。勝浦町の「ビッグひな祭り」に向けた、ひな人形の受け取りと仕分け作業のサポートを皮切りに、さまざまな活動に参加している。5月には、同じく協働パートナーの西精工株式会社とともに牟岐町出羽島へ。社内活動であ

る社会奉仕委員会のメンバーを中心に有志5名が、海岸の清掃や段々畑の手入れ、植樹体験を行った。「豊かな自然に触れあえて、島のみなさんが温かく迎えてくださって…ボランティアのはずが、思いがけず観光に訪れたような非日常気分。これまで知らなかった島のこともたくさん知れて、一緒に参加した社員たちも『行ってよかった』『また行きたい』と大満足の様子」と向井さん。参加後、全社員に向けたチャットで、活動報告を出羽島の魅力と併せて発信。「私も行ってみたい」と関心を示す声も多く聞こえてきたという。

「当社が社会貢献活動をするのは、いつも支えてくださっている地域の皆様への恩返しの一つの形。生まれ育った徳島のためにできることでもあるので、これからも積極的に取り組みたいです」と向井さんは意気込む。次は、鳴門市で行われている伝統的なスズづくりの保全に携わりたいという。「ふるさと団体からの応援依頼の一覧を見ていると、楽しそうな活動がたくさんあるんです。自分が楽しみながら体験することで、私も参加してみよう!という前向きな気持ちで、社員たちにも徐々に広げたいと思います」。



出羽島を考える会の最新情報はコチラから!



高橋ふとんと店のホームページはコチラから!